



レンジャーになりたい

平成 29 年度入省予定

環境省総合職自然系 内定者の声

はじめに

こんにちは！この冊子を手にとってくださりありがとうございます。

この冊子は平成29年度の総合職自然系職員として内定した6名がまとめた『内定者の声』です。私たちがどのような思いで、総合職自然系職員（通称『自然保護官』『レンジャー』）を目指し、どのような勉強や対策を行ってきたのか、そして受験者の皆さんへのアドバイスを思い思いに綴ったものです。レンジャーを目指す人はもちろん、興味はあるけど勉強や対策の取り組み方が分からない人等にも、参考になるのではないのでしょうか。受験者の皆さんの助けに少しでもなることができれば幸いです。

いつの日か皆さんと一緒に日本の自然環境に関われる日を楽しみにしています！

※環境省の職員

環境省の職員には総合職と一般職があり、事務系、理工系、自然系の3つに分かれています。『レンジャー』と呼ばれるのは、総合職と一般職の自然系職員です。

※レンジャーの仕事

レンジャーは多岐にわたる自然環境業務を行っています。具体的には生態系の保全、国立公園の管理、外来種対策や野生鳥獣の保護、ペット動物の愛護、エコツーリズムといった自然とのふれあいの推進などです。このような業務を通じて、自然系職員は貴重で豊かな自然を守り、時にはふれあいなどの利用の促進に努めています。

また、自然系職員の業務には、霞ヶ関にある本省での業務だけでなく、各地方環境事務所や自然保護官事務所に赴任し、地域の方々や他の行政機関と協力しながら現場の第一線で活動したり、他の行政機関や海外へ出向する業務もあります。

※この冊子について

この冊子は平成29年度の総合職自然系内定者によって作成されました。

各職種の詳しい業務内容やお知らせについては環境省のホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。

『環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/> 』

『環境省総合職自然系ページ http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html 』

また、この冊子の記載はあくまでも個人の意見です。これを参考に自分にあった勉強方法や対策を見つけていただければと、内定者一同願っております。

目次

はじめに	1
目次	2
内定へ向けての予備知識	3
利用した参考書、資料一覧	9
内定への道	
Aさんの場合	13
Bさんの場合	18
Cさんの場合	23
Dさんの場合	30
Eさんの場合	36
Fさんの場合	41
内定者ってどんな人たち？	45
環境省の印象	47

内定に向けての予備知識

平成 28 年度国家公務員総合職試験及び内定までの流れ ※1

日程	内容	備考
H28 2/1 (月)	受験案内等を HP に掲載	
4/1 (金) ~4/11 (月)	申込受付期間 (インターネット)	
5/22 (日)	第 1 次試験日 午前：専門多肢選択式 午後：基礎能力試験	服装自由 (私服歓迎) 翌日 (5/23) に HP に解答掲載
6/7 (火)	第 1 次試験合格者発表日	インターネット掲載, 合格通知書 (二次試験の日時・会場の通知)
6/19 (日)	第 2 次試験日 (筆記) 午前：専門記述式 午後：政策論文 (大卒のみ)	服装自由 (私服歓迎) 人物試験の日時・会場の通知 (大卒：手渡し 院卒：ハガキ)
6/30 (日) ~7/15 (金)	第 2 次試験日 大卒者試験：人物試験	原則日時変更不可 スーツ推奨 (クールビズ)
7/11 (月) ~7/15 (金)	第 2 次試験日 院卒者試験：人物試験 ：政策課題討議試験	同上
7/29 (金)	最終合格者発表日	インターネット掲載, 合格通知書
8/3 (水) ~8/5 (金)	官庁訪問 第 1 クール 開始：3 日(水) 午前 8 時 30 分	1 日目：先着順 2 日目以降：電子メールにて予約
8/8 (月) ~8/10 (水)	官庁訪問 第 2 クール	指定された日時に訪問
8/17 (水)	内々定解禁	電話にて通知
10/3 (月)	最終面接 内定式	夜に懇親会あり (自然系内定者は初めて面会)

※1 平成 29 年度日程は国家公務員試験採用情報 NAVI でご確認ください。

(<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>)

* 試験区分について *

環境省自然系では平成 27 年度より、森林・自然環境区分に加え化学・生物・薬学区分からも採用されるようになりました。平成 28 年度内定者 6 名の内訳は、森林・自然環境区分 5 名、化学・生物・薬学区分 1 名です。人数の偏りから化学・生物・薬学区分のアドバイスが少なくなるかと存じますが、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。総合職では試験区分による業務内容の違いはありません。

* 森林・自然環境区分の各試験の概要 *

□ 基礎能力試験（配点 2/15）

- ・ 試験内容は知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）と知識分野（自然・人文・社会、時事）で、全て多肢選択式です。
- ・ 院卒区分は知能分野 24 題＋知識分野 6 題の計 30 題で制限時間は 2 時間 20 分
大卒区分は知能分野 27 題＋知識分野 13 題の計 40 題で制限時間は 3 時間です。

□ 専門多肢選択式試験（配点 3/15）

- ・ 必須問題（森林・自然環境に関する基礎）と選択問題 3 科目 27 題の計 40 題、制限時間は 3 時間 30 分です。時間は有り余るので途中退出する人が多いです。
- ・ 選択問題は以下の科目から 3 つを解答時に選びます。

1. 森林環境科学、2. 森林資源科学、3. 森林生物生産科学、4. 砂防学基礎、5. 砂防工学、6. 流域管理、7. 造園学原論・造園材料、8. 造園計画（自然公園）、9. 造園計画（都市公園）、10. 木材特性・木質構造、11. 木材加工・材質改良、12. 木材成分利用

□ 専門記述式試験（配点 5/15）

- ・ 森林科学に関する基礎、2. 国土保全に関する基礎、3. 自然環境・公園緑地に関する基礎、4. 木材等林産物に関する基礎の 4 科目から 1 科目を解答時に選びます。
さらに 1 科目 3 題あるうち、任意の 2 題を解答します。
- ・ 解答用紙は罫線＋うっすらマス目のある A3 くらいの用紙を 1 題につき 1 枚（両面）使用します。

□ 人物試験（配点 3/15）

- ・ 面接官 3 人に対して受験者 1 人のいわゆる面接試験で、時間は 1 人 20 分程度です。
- ・ インターネットからダウンロードして記入した面接カードを当日提出し、基本的にはその内容に沿って質問されます。

□ 政策課題討議試験（院卒） / 政策論文試験（大卒）（配点 2/15）

- 政策課題討議試験は、6人1組（欠席者が居れば4,5人）で与えられた政策課題について討議を行い、試験官3人がその様子を評価する試験です。
 - ・ 課題の内容は試験区分に関わらず、あらゆる政策分野から出題されます。
 - ・ 試験の流れは以下の通りです。
 1. 課題文と関連資料3つほど（1つは英語資料）が配布されます。
 2. 資料を25分間で読み込み、自分の意見をA4・1枚にまとめます。まとめ方は文章のみでも図を用いても良く、自由です。
 3. その後ディスカッションルームへ移動し、各受験者のレジユメのコピーが配られ、意見を1人3分で発表していきます。
 4. 全員の発表の終了後、30分間の討議に移ります。討議では必ずしも一つの解を出す必要はありませんが、制限時間内に出来るだけ一定方向の意見にまとめることが求められます。司会等の役割分担を決めるかどうかは各グループに任されます。
 5. 討議終了後、討議を踏まえた自分の意見を1人2分で発表して終了です。
 - ・ 同じグループになるのはおそらく同じ試験区分の人たちです。今後長い付き合いになる可能性も踏まえて、積極的にコミュニケーションを図りましょう！
- 政策論文試験は、同様の課題と資料が与えられ、小論文形式で解答するものです。制限時間は2時間です。
- 政策課題討議試験（院卒）の過去問は請求できませんが、政策論文試験（大卒）の過去問は請求することができます。

□ 外部英語試験

- ・ 平成27年度から新たに導入された試験です。過去5年以内に受験したTOFEL、TOEIC、IELTS、英検での取得点数に応じて、試験の総得点に15点または25点が加算されます。美味しい点数になること間違いなしです。ぜひ早めのご準備を！
- ・ 受験申込の時点で点数を申告し（ネット）、2次試験の人物試験・政策課題討議試験の日に証明書類を提出します。最終合格した場合には各省庁等にも取得点数が伝わるそうです。

化学・生物・薬学区分の各試験の概要

基礎能力試験、人物試験、政策課題討議試験（院卒）および政策論文試験（大卒）、外部英語試験については、森林・自然環境区分と共通です。各試験の配点も森林・自然環境区分と同様です。

□ 専門多肢選択式試験（配点 3/15）

- ・ 必須問題（数学・物理・化学・生物に関する基礎）10題と選択問題30題の計40題、制限時間は3時間30分です。計算を要する問題も多いので、解答にかかる時間はほかの区分と比較すると多少長めです。それでも、時間に余裕はあると思います。
- ・ 選択問題は以下の中から5科目又は6科目を選択し、任意の30題を解答します。

1. 数学・物理、2. 基礎物理化学・基礎無機化学、3. 物理化学・無機化学、4. 有機化学、5. 工業化学・化学工学、6. 分析化学・薬化学、7. 薬理学、8. 薬剤学・衛生化学、9. 食品学、10. 土壌肥料学・環境科学・農薬、11. 生化学・分子生物学、12. 応用微生物学・生物工学、13. 発生生物学・生理学、14. 細胞生物学（形態学を含む。）・放射線生物学、15. 遺伝学・進化学、16. 生態学（動物行動学を含む。）・系統分類学

□ 専門記述式試験（配点 5/15）

- ・ 以下の科目から19題出題され、任意の2題を解答時に選びます（同じ科目から2題選択可）。
- ・ 解答用紙は罫線のあるA4くらいの用紙を1題につき4枚（片面）使用します。

物理化学②、無機化学①、有機化学①、分析化学①、化学工学①、薬化学①、薬理学①、薬剤学①、食品学①、土壌肥料学①、生化学①、分子生物学・生物工学①、応用微生物学①、発生生物学①、生理学①、細胞生物学（形態学を含む。）①、遺伝学①、生態学（動物行動学を含む。）①

※その他試験の詳細は、国家公務員試験採用情報 NAVI 等で確認してください。

* 官庁訪問について *

□ 官庁訪問とは？

- ・ 官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。総合職試験に最終合格（国家総合職試験の第二次試験に合格）すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、最終合格＝採用ではありません。最終合格後、自身の希望する省庁へ官庁訪問を行い、官庁訪問を突破した人が採用されます。そのため、最終合格者の人数よりも、実際の採用者数は大幅に下回っています。
- ・ 官庁訪問では、複数の志望省庁を訪問することになると思います。原則として第一志望の省庁への訪問を1日目に行うのがベストですが、2日目以降に訪問したからといって採用されないということは環境省ではありません。今年の内定者の中にも2日目以降に環境省を訪問した人もいますので、安心してください。
- ・ 官庁訪問の開始日については第二次試験の際に配布される『第2次試験受験者の皆様へ』に書いてあります。総合職の官庁訪問は第5タームまであります。原則として、1タームにつき1つの省庁への訪問は1回で、合格すれば次のタームの官庁訪問も行えるという理解でいいと思います。次のタームの訪問日は省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合があります。これは省庁によって異なります。そのため、自身が訪問する省庁は指定されるのか、選べるのかOBOG等に尋ねて、どの省庁を何日目に訪問するか、事前に計画しておきましょう。また、遠方の方はかなり長期戦（約2週間）になるため、ホテルや飛行機の手配など、自身の費用と照らし合わせて早めに予約しておくといいです。

□ 環境省の官庁訪問について

※面接の形式や回数は各省庁・採用区分によって大きく異なります。

- ・ 環境省の自然系総合職は基本的に個人面接のみで、平成28年度は第1タームと第2タームのうち計2日、訪問しました。先にも書いたように、第1タームで落ちればそこで終了です。
- ・ 第1次タームは、初日のみ先着順で2日目以降は事前予約した上で面接を受けます。また、全日、1日あたりの定員は20名程度で午前・午後①・午後②の3グループに分かれて、面接を受けます。初日は人数が多いので、集合時間直前に来ると午後②になってしまうこともあります。採用のされやすさには全く影響しないので安心してください。2日目以降は予約の段階で面接時間の希望を言えるため、1日目よりは待ち時間が少なくなります。
- ・ 第2タームは、第1タームの結果通知メールにより指定された日時に訪問されます。（環境省は指定され、希望は言えません。）

- ・ 面接では、国家総合職試験の第2次面接と同様に、面接カードを提出した上で面接を行います。各省庁の面接カードの様式は第2次試験後にHPに掲載されるので、それをコピーして記入し、当日に持参します。

□ 環境省総合職自然系の平成28年度の官庁訪問スケジュール

日程	内容
平成28年8月3日(水)～8月5日(金)	第1次ターム ➤ 自然系職員1～2名と20～30分の面接×3回
平成28年8月8日(月)～8月10日(水)	第2次ターム ➤ 自然環境局の幹部職員4名と20分の面接×1回
平成28年8月17日(水)午後	内々定解禁 ➤ 結果の通知が電話で来る。

※上記の内容はすべて平成28年度の情報です。最新の情報や詳細については、人事院や環境省の採用ホームページ等や、必要に応じて採用担当者に確認してください。

利用した参考書・資料一覧

多くの人が利用したものを赤字にしています。

【基礎能力】

◎過去問

- ・ **総合職試験過去問** <人事院・先輩から入手したもの>

◎知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）

- ・ 国家総合職教養試験問題集 <実務教育出版>
- ・ 過去問新クイックマスターシリーズ <LEC 出版>
- ・ 新スーパー過去問ゼミシリーズ <実務教育出版>
- ・ 畑中敦子の判断推理 **The Best+**（ザ・ベストプラス） <エクシア出版>
- ・ 畑中敦子の数的推理 **The Best+**（ザ・ベストプラス） <エクシア出版>

◎知識分野（自然、人文、社会、時事）

- ・ 過去問新クイックマスターシリーズ <LEC 出版>
- ・ 新スーパー過去問ゼミシリーズ <実務教育出版>
- ・ 新・光速マスター <実務教育出版>
- ・ 平成 28 年度試験完全対応 速攻の時事 <実務教育出版>
- ・ 日経新聞

【専門試験】（森林・自然環境区分）

◎過去問

- ・ **総合職試験過去問** <人事院・先輩から入手したもの>
- ・ 一般職試験過去問
- ・ 都庁・特別区過去問
- ・ 造園施工管理技士試験 2 級過去問

◎必須問題

- ・ 高校地学 I 教科書 <啓林館>

◎科目 1～3：森林系

- ・ **森林・林業白書** <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/>
- ・ **林野庁 HP** <http://www.rinya.maff.go.jp/>
- ・ **森林・林業実務必携** <朝倉書店>

- ・ 森林・林業基本計画 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/plan/>
- ・ 林業技術ハンドブック <社団法人 全国林業改良普及協会>
- ・ ニューフォレストーズガイド <全国林業改良普及協会>
- ・ 土壌学の基礎 <農山漁村文化協会>
- ・ 森のバランス <森林立地学会>
- ・ 森林林業学習館 <http://www.shinrin-ringyou.com/>
- ・ 法令データ提供システム <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
- ・ 授業ノート、教科書

◎科目 4～6：砂防系

- ・ **森林・林業実務必携** <朝倉書店>
- ・ 山地保全学 <文永堂出版>
- ・ 森林水文学 <文永堂出版>
- ・ 砂防工学 <朝倉書店>
- ・ 砂防用語集 <山海堂>
- ・ 一般社団法人 斜面防災対策技術協会 HP <http://www.jasdim.or.jp/>
- ・ 授業プリント

◎科目 7～9：造園系

- ・ **法令データ提供システム** <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
- ・ 2級造園施工管理技士 <弘文社>
- ・ 造園用語辞典 第三版 <彰国社>
- ・ 造園が分かる本 <彰国社>
- ・ 造園の施設とたてもの <コロナ社>
- ・ 改訂 造園概論とその手法 <一般財団法人 職業訓練教材研究会>
- ・ 国立公園の法と制度 <古今書院>
- ・ ビオトープ管理士2級公式テキスト <財団法人日本生態系協会>
- ・ 環境省 HP <http://www.env.go.jp/index.htm>
- ・ 国立公園 HP <https://www.env.go.jp/park/>
- ・ 国土交通省 公園とみどり <http://www.mlit.go.jp/toshi/park/>
- ・ NHK eco チャンネル HP
<http://www.nhk.or.jp/eco-channel/jp/history/chronicle/01.html>

【専門試験】(化学・生物・薬学区分)

◎過去問

- ・ 総合職試験過去問 <人事院・先輩から入手したもの>

◎必須問題

- ・ フォトサイエンス生物図録 <数研出版>

◎科目 9：食品学

- ・ 最新食品学：総論・各論 <講談社>
- ・ 栄養の教科書 <新星出版社>
- ・ 食品学：食品成分と機能性 <東京化学同人>
- ・ 食品加工学 <建帛社>
- ・ 基礎食品学 <アイ・ケイコーポレーション>
- ・ 食品の科学知識：身近な飲食物から栄養素・サプリメントまで<ニュートンプレス>
- ・ 授業プリント

◎科目 10：土壌肥料学・環境科学・農薬

- ・ 土壌学入門 <古今書院>
- ・ 土と農薬：環境中における農薬の行くえ <日本植物防疫協会>
- ・ 安東和彦(2000) 樹木医の農薬概論：I. 農薬の安全性と登録. 樹木医学研究, 4(2), 87-92.
- ・ 土壌と土壌改良剤 植物の栄養と肥料 (農薬土壌・特殊緑化技術講習会資料)
http://www.iriyamato.co.jp/japanese/web_shop/catalog/ringyouhiryou/hiryoueiyou.pdf
- ・ 授業プリント

◎科目 15：遺伝学・進化学

- ・ エッセンシャル遺伝学 <培風館>
- ・ これだけは知っておきたい図解ジェネティクス：新しい遺伝学がわかる<オーム社>
- ・ 生物の多様性と進化 <朝倉書店>

◎科目 16：生態学（動物行動学を含む。）・系統分類学

- ・ 生態学：個体・個体群・群集の科学 <京都大学学術出版会>
- ・ 生態学入門 <東京化学同人>
- ・ 生態学入門：生態系を理解する <生物研究社>
- ・ 生態学キーノート <丸善出版>
- ・ 生態適応科学 <http://gema.biology.tohoku.ac.jp/textbook/>
- ・ 基礎生物学 II http://www2.kpu.ac.jp/life_environ/app_entom/kisosei1.pdf

【面接（人事院面接・官庁訪問）】

- ・ 公務員試験 現職人事が書いた本シリーズ <実務教育出版>

- － 「公務員試験で受験性が気になること」の本
- － 「面接試験・官庁訪問」の本
- ・ 先輩が書いた面接カード（都道府県、市役所、一般職）
- ・ 行政課題・政策論のポイント <実務教育出版>
- ・ [各省庁 HP](#)

【その他】

- ・ [平成 27 年度内定者の声](#)

内定への道＜Aさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・23歳（2016年4月）

【併願先】地方上級（林業）、一般職（林学）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会（1回）

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】森林科学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③森林生物生産科学

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1とNo.3）

志望動機

大学2年のときに、学内の海外研修でカナダのバンフ国立公園とジャスパー国立公園を訪れ、国立公園や美しい自然景観に魅了され、大学3年の研究室配属の際に国立公園管理の研究ができる森林政策学を専攻しました。その後、卒業論文と修士論文で国立公園の利用に関することを研究し、仕事でも国立公園に関わりたい！国立公園で生じている課題の解決に努めたい！と思い、環境省の職員を目指しました。

環境省の職員が国立公園に大きく関わることのできる立場であることは大学3年のころから知っていました。しかし、大学4年の就活のときには、環境省へ就職するよりも自身の調査対象地での研究を続けることの方が私にとっては大事だったので、迷わず大学院へ進学しました。その後、後にも書いていますがインターンシップへ参加したり、博士課程に進もうかなあと悩んだりして、修士2年の4月頃に環境省へ行こう！と決心しました。

フィールドに出るのが好きなので、最初は一般職を第一志望にしていました。しかし、試験勉強や研究を進めていくうちに、「森林林業や国立公園の課題に、地域ごとで対応していくことには限界があるのではないかな。限界のある部分には、国全体で対応していかなければならないのではないかな。」と考えるようになり、局所的な業務だけでなく、全体的な業務もできる総合職を第一志望に変更しました。

勉強方法

公務員試験の勉強を始めたのは今年の4月でした。そのため、勉強方法（特に1次試験）は他の方を参考にしてください。

【1次：基礎能力試験】

数的処理と判断推理の参考書を1冊ずつ購入し、重要な箇所（よく試験に出る範囲）の

みを一巡しました。数的処理と判断推理は中学受験のときはかなり勉強したので、特に難しくありませんでした。

時事問題は「速攻の時事 2016」を購入したものの、第1章しか見ていません。また他の科目（化学や英語、文章理解など）の勉強はしていません。

【外部英語試験】

TOEIC などによる加点があることは知っていましたが、加点は受けていません。TOEIC は3回ほど受けましたが、加点される点数ではありませんでした。コツコツ勉強できるタイプではない&海外へ行けばどうにかなる（身振り手振りで通じて、生活できる）ことを分かっているため、英語の勉強は大の苦手です。仕事では使う機会が多々あると思うので、内定式後に少しずつ勉強しています…。

【1次：専門多岐選択式試験】

専門試験の勉強は「国家公務員一般職試験の過去問（H20～）」を使用しました。最初は全く分からなかったもので、林業白書や実務必携を見ながら間違えている箇所を訂正していくことを繰り返していました。最初は本当に分からなくて不安になることもありますが、しばらくすると見たことのある問題が多くなり、自然と解けるようになりました。基礎能力試験よりも加重が大きいので、時間のない人は専門試験の勉強に重点を置いた方が良いと思います。また、総合職の一次試験までの期間は第一志望が一般職であったため、総合職の過去問はしていません。

【2次：専門記述試験】

一次試験後、合格していると思っていなかったもので、合格発表後の一週間のみ勉強しました。勉強は過去問を解くのではなく、過去に総合職に合格した友人からオススメされた森林林業に関する本と森林・林業基本計画（<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/plan/>）を読みました。オススメされた本は藤森隆郎さんの「森づくりの心得」です。私はこの本を入手できなかったため、この本の要約が記載されている「森林総合監理士（フォレスタ）基本テキスト 第2章：森づくりの理念と森林施業」を読みました。（林学専攻であれば、先生が持っていると思います。）少し難しい内容なので、3回ほど読みました。そうすると、林業白書や森林・林業基本計画で書いていることに対して疑問が湧いてきて、その疑問を指導教員の先生方と討論して自身の意見を持つことで、だいたい近年の森林林業の政策に関する回答を書くことができるようになりました。ただ、この本を読んでも生物多様性に関する政策の詳細などは分からないので、それは林業白書や環境白書で補うのが良いと思います。

【2次：人物試験・政策課題討議試験】

人物試験は特に何の練習もせずに挑みました。この時点で、まだ一般職と迷っていたこともあり、「練習がてらに受けよう」という気持ちがリラックスして受けられたことに繋がったのでは…と思っています。面接カードには、「自分がたくさんお話できること」を中心に書きました。過去の先輩の面接カードを見て、構造や書くことを考えたりもしました。もし先輩の面接カードが入手できるのであれば（一般職・地方上級職でも可）、参考に見ると良いと思います。

政策課題討議試験は、時間配分が予め公表されているので、それを調べておいたのと、レジュメの見やすい作り方をネットで調べて少し確認しました。当日は、1グループ6名で決められた課題について討論しました。研究室のゼミでしっかり発言できていれば、特に問題はないように感じました。

【官庁訪問】

官庁訪問は、学校の用事があったため、第1クールの2日目から参加しました。2日目なのでネットで予約をしてから行きました。面接カードは、二次試験の人物面接で書いた内容とほぼ同じ内容を記入しました。やはり自分がたくさんお話できる内容を書いた方が良いと思います。

面接は最初に2名の職員の方とブースで面接をし、2回目は職場で面接（原課面接）を1名の職員の方と行い、3回目に1名の職員の方と個室で行いました。面接では、面接カードに沿って質問され、それに答えた後にこちらからも質問ができます。私はどの面接でも育児や結婚のことについて質問しました。気になっていることがあれば、この面接で聞くと良いと思います。

また、官庁訪問の待ち時間は、飲食可能です。省内のコンビニ等に行くこともできますが、いつ呼ばれるか分からないので持って行くことをオススメします。（私は飲み物と、パン、お菓子を持って行きました。お腹が空いたので普通に食べました。笑）

アドバイス

【総合職以外の公務員試験について】

国家公務員総合職を志望していても、一般職や都道府県も受けていて損はないと思います。特に都道府県は、面接カードの記入内容がとても細かく、それを作成することによって、より自分自身について考えることができるからです。なので、先に書いた参考にする先輩の面接カードは総合職以外のものでも役に立つと思います。

【民間企業の就職活動について】

公務員が第一志望でも、民間企業への就職について一度は考えた方が良いと思います。私は民間企業でできること・できないこと、環境省でできること・できないことが自分ひ

とりではよく分からなかったため、修士1年の夏休みに民間企業と環境省の両方のインターンシップへ参加しました。結果的に、民間企業の就職活動はしていませんが、インターンを通して自分なりに知った民間企業と環境省の違いが、「自分は何をしたいのか」を突き詰めていく上で、とても重要な経験になったと思っています。インターンは1週間くらいから数か月まで、自分で選べるので自分の予定を調整したりして参加できます。

【他の省庁への官庁訪問について】

官庁訪問は環境省の他に林野庁へも行きました。林野庁は原課面接が5回行われ、職場の雰囲気をよく知ることができたため、迷っている方はどちらも訪問すると良いと思います。私の場合は、他の省庁へも訪問することによって、より自分のしたいこと明確にすることと、自分と合った省庁を選ぶことができました。

【地方から受験される方へ】

地方から受験される方は、金銭面がとても心配だと思います。私は自身の大学の宿舍（1泊1500円）が東京にあったため、それを使用し、ホテル代を節約しました。官庁訪問は、直前に飛行機を取ることもあり、早割などは使えず、交通費はなかなか節約できませんでした。（新幹線のときは、学割を利用しました。）結局、費用は1次試験から官庁訪問終了までで約12万円かかり、両親に負担してもらいました。（後から知ったのですが、この12万円という金額は遠方にしてはかなり安いようです。）

【国立公園に関わる職業や業務を知る】

私は自身の研究でかなり調査対象地の国立公園に関わっており、現地のレンジャーとも毎月顔を合わせていました。でも、これでは特定の国立公園での業務しか分からないし、自分の興味と研究のために他の国立公園での取組や業務も知りたい！と思い、

- ・ 一般財団法人自然公園財団から毎月発行されている『国立公園』
 - ・ 公益財団法人日本交通公社から毎月発行されている『観光文化』
 - ・ 一般財団法人自然公園財団から毎年発行されている『自然公園の手引き』
- を読んでいました。（今も読んでいます）特に、『国立公園』は各地域のレンジャーの業務の紹介も掲載されているので、あまり現地へ行けない人にはオススメです。

最後に

勉強開始から官庁訪問終了までの5か月間、初めてで分からないことが沢山あり、心が折れそうなきもちもありましたが、同じ研究室の公務員を目指す仲間がいたから乗り越え、合格できたと思っています。国家公務員、地方公務員問わず、公務員試験を受験する仲間がいることは本当に力になるので、そういった仲間を見つけて頑張ってほしいです。この公務員試験で「受験は団体戦」の意味を理解しました。

スケジュール

2015年		2016年	
1月	卒論提出	1月	論文執筆
2月	卒論発表	2月	旅行
3月	・ 卒業旅行 ・ 初めての学会発表	3月	・ 旅行 ・ 学会発表
4月	大学院入学	4月	・ 調査 ・ 専門と教養の勉強を開始するが、調査中心の日々を送る
5月	調査	5月	・ 調査 ・ GWを離島で過ごし、海の良さにも気づき始める ・ 22日：総合職1次試験
6月	一般職の試験を試しに受けてみる。 (不合格)	6月	・ 梅雨の為、調査休み ・ 12日：一般職1次試験 ・ 19日：総合職2次試験 ・ 23日：総合職1次試験合格者説明会へ参加 ・ 26日：県庁1次試験
7月	・ 旅行 ・ 研究会	7月	・ 調査再開 14日：総合職面接 ・ 21日：県庁面接 ・ 22日：一般職面接
8月	環境省（自然保護官事務所）のインターンに参加	8月	・ 調査 ・ 3日～：官庁訪問 ・ 17日：総合職内々定
9月	・ 民間企業（環境系コンサル）のインターンに参加 ・ 調査 ・ 学会発表 ・ 論文執筆	9月	・ 調査 ・ シュノーケリングを楽しむ
10月	調査	10月	3日：最終面接&内定式
11月	・ 調査 ・ 学会発表	11月	調査終了
12月	論文執筆	12月	修論まとめる

内定への道＜Bさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学4年・女性・22歳

【併願先】一般職（農業農村工学）、横浜市（造園）、東京都庁（造園）

【参加した説明会・回数】一次試験後の合同説明会（総合職・一般職）、JOBトーク等・6回

【試験区分】森林自然環境（大卒試験） 【専攻科目】生態学

【1次試験選択】①造園学概論・造園材料 ②造園計画（自然公園）③造園計画（都市公園）

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎（No.7及びNo.8）

志望動機

私は、後世まで人と自然を繋ぐ職務に貢献したいと考え、環境省を志望しました。「環境」を軸に据え、現場と制度作りの両面から自然共生社会の実現へと導いていく姿勢は、環境省ならではの大きな魅力だと考えています。

公務員試験の勉強を始めた頃、私は地方公務員が第一志望でした。高校生の頃からレンジャーに憧れていたものの「国家なんて怖い…」という気持ちが大きく、本命に向けて試験の練習がしたかった、というのが総合職試験を受けた一番大きな理由です。しかし「どの試験種であっても一番を取るつもりでやろう」という意識で取り組んだ結果、総合職に進む機会を頂くことができました。地方公務員も国家公務員もそれぞれの魅力がありますから、最終的に人生の選択肢が広がったことは本当に良かったと思っています。以下、地方公務員に照準を当てつつ総合職に滑り込んだ話となりますが、少しでも参考になる部分がありましたら幸いです。

勉強方法

基本的に、私は以下の手順を繰り返しました。

1. やらなければならないことをピックアップする
2. 「いつまでに」、何をどのくらい終わらせるべきか整理する
3. 「一日に」、何をどのくらい進めるか決める
4. 毎日進捗をチェックし、一か月などの区切りで全体を確認する

区切りを決めて頭を整理し、優先順位を決めることと毎日のペースを作ることが大事だと思います。モチベーション等様々な理由から、必ずしも予定通りに進むとは限りません。

時には自分の位置を確認し、常にゴールを見失わないようにするべきだと感じます。

【1次：基礎能力試験】

基本的には、1問につき3分などの制限をつけて問題集を解き、得点源としたい科目（私の場合は数的処理、社会科学、人文科学）の間違った問題だけを2~4周繰り返すスタイルを取りました。4月以降は都庁の教養試験の過去問を10年分集め、1日の間に専門試験や論文試験とセットにして本番さながらに解きました。週に1~2回のペースです。時間配分や解く順番は重要になるので、「この問題は解ける気がする…」と1問に10分も費やしてしまう人にはおすすりめです。頭の疲れ具合も練習になります。

【1次：専門多肢選択式試験】

受験した造園区分は私の専攻外なので、独学となりました。まずは過去問に目を通し、どのような問題が出されるのか把握しておくことをおすすりめします。基本的には、ネットや本をまとめて自分だけの参考書をつくり、それらの単語や関連事項を記述で説明できることを目標に勉強しました。これは総合職の二次試験のみならず、都庁の専門記述試験にも役立ちました。また、過去問を解くことで得る知識も多くありましたので、解き直しや調べ直しは有効な手段だと思います。

- ・造園史：インターネットや本で調べ、まとめる
- ・法律：主要な条文はまとめておき、過去問で出てきた他の法律を追加していく
- ・設計施工(土木・建築)：土木・建築系の人に分かりやすい教科書を借り、解説してもらう
- ・樹木：身近な樹木のみ抑えておき、他に過去問で出てきたものはその都度調べる
- ・白書や最新の動向(余裕があれば)：国土交通省・環境省のホームページに目を通す

【2次：専門記述式試験】

私の場合、本命の地方公務員試験の1週間前だったので、過去問を2年分解いただけで本番を迎えてしまいました。対策するとすれば、基本的な知識を確認すること、白書や最新の動向を抑えておくこと、考えを簡潔に述べることではないかと思ひます。

【2次：政策論文試験】

基本的には、問いに対する一般論→その問題点・改善点（自分の知識や資料の読み取りから）→自分の考え（こうしたら解決できるのではないか）→その根拠や具体例・想定できる成果（そのために具体的にこのような提案をしたい、そうすればこんな成果が出そう、なぜなら〜）→まとめ という構成を30分程度で作り、残り時間で論文を書き上げる練習をしました。年末年始等の早い段階で一度、試しに論文を書いてみた方が良いと思ひます。私の場合、論文がへたくそだと気付くのが遅く、直前期は涙が出そうでした。論文に自信が無い方は、構成をしっかりと練習することと何度も添削してもらうことをおすすりめします。

【2次：人物試験】

基本的には、面接カードに記入した一語一語に線を引き「なぜそう思ったか」「何を得たか」「どう活かせるか」などを簡潔に書き込んでいきました。人事院面接では面接カードに沿った質問がされますので、記入したどの文面から質問されてもスムーズな回答ができるようことん掘り下げると、自信を持って面接に臨めると思います。

また、友人やキャリアセンター等をお願いして面接練習をすることをおすすめします。民間企業の就職活動を経験した友人の助言は本当に役立ちました。話が長い、一貫性が無い、質問に答えていない、視線が泳ぐ、姿勢が悪い…等、自分では気付かないことを指摘してもらえます。録音録画する、なども自分を客観的に見るうえで有効かと思います。

【官庁訪問】

どの省庁を訪問するかということに関しては、説明会や見学会に積極的に参加することをおすすめします。私の訪問順は以下の通りです。

第1クール 1日目：他省 2日目：私用のため行けず 3日目：環境省

第2クール 1日目：他省 2日目：環境省

私は環境省と他省を訪問しましたが、実は他省だけを訪問するつもりでスタートしました。他省の職員訪問や説明会を通してその施策内容に大きな魅力を感じ、早めに選択肢を絞ろうと決断したためです。しかし環境省の説明会に何度も足を運んでいたことから、「せっかく様々な省庁に訪問できる機会だから」とお声を掛けて頂き、環境省への官庁訪問を決意しました。結局どちらに進むべきか悩みに悩み、幹部面接後には日比谷公園で泣きながら父親に電話していました。笑

ちなみに私は、第1クール3日目に訪問＝志望度が低い という印象を与えることに少し引け目を感じていました（2日目は私用で訪問できなかったため）。が実際は、熱意が伝われば訪問順はあまり気にしなくて良いかもしれません。早い段階で自ら可能性を断つことなく、気になる省庁には積極的に訪問されると良いかと思います。

官庁訪問そのものに関しては、私の場合、環境省自然系の面接は両日とも午前中に終了しました。他省が第一志望である旨は正直に伝えましたが、どの面接官も圧迫的な態度は無く、私からの質問にも丁寧に対応していただきました。私は主に人柄や学生時代頑張ったことについて聞かれましたが、他の方は「最近どんな本を読んだか」「内閣改造についてどう思ったか」等も聞かれたそうです。社会情勢や普段の自分のあり方も見直しておく、様々な質問に柔軟に対応できるかもしれません。

アドバイス

説明会や見学会に参加した際は、どんどん職員の方に話しかけると良いと思います。私は独学や学部生であることになんかなり不安があり、なんでもかんでも質問していました。笑

また勉強面も精神面も終始1人きりで頑張ることなく、周りの環境やサポート体制を活かして様々な人の協力を得ると良いと思います。自分が持つ力はちっぽけですが、それを何倍にもしてもらったと感じています。

その他

○学部生でも平気だろうか

職員の方はどなたも「知識を求めているのではなく、熱意があれば」と仰っていました。専門的な知識が乏しく経験も浅い学部生が総合職に見合うだろうか・・・私が最初感じた壁でしたが、最終的に判断するのは相手だからと半ば開き直り、「学部生であることを強みに思って面接しよう！」と切り替えて臨みました。

○地方公務員と悩む

私の場合、住民の声を聞ける存在でいたい、現場主義でいたいとの思いから地方公務員を目指していました。しかし様々な職員の方のお話を通して、国家公務員こそ、そこに住む人や現場に根付く働きが重要なのではないかと感じるようになりました。現場への意識を大事にしつつ、全体の指揮を執る制度作りとの両面から人と自然を繋いでいけるように貢献していきたい。そう考え、国家公務員に決断しました。壮大なフィールドを持ち、地方自治体の素敵な事例を全国に広げていくことが出来ることも魅力に感じています。

○最後に

この公務員試験を通しての私の一番の強みは、「やり切った、これ以上は頑張れなかった」と言い切れる自信でした。「これまでやれることはやってきたから、どんな問題や質問でも大丈夫！」と心から思えたから、落ち着いて臨むことが出来たのだと思います。皆様が、自分の進みたい道に向けて悔い無く過ごせるようお祈り申し上げます。拙い文章ですが、最後までお読みいただきありがとうございました。

スケジュール

	2015 年	2016 年
1 月		模試もツライ
2 月		研究ポスター発表 本格的に勉強を始める
3 月		友達のツテで都庁 OB の方に話を伺い、専門の勉強を大幅に修正
4 月		
5 月	予備校に通い始める（教養のみ）	総合職試験 1 次
6 月		都庁・横浜市・一般職試験 1 次
7 月		総合職・都庁・横浜市・一般職 2 次 国家公務員の説明会や見学会に行き、 国家へと気持ちが傾く
8 月		官庁訪問 内々定
9 月	研究室に配属される 研究と勉強の両立が難しく、2 月までは研究に本腰入れることを決意	遊びと旅行を詰め込む 研究に身を戻し始める
10 月	地方自治体の説明会やセミナーに参加	内定式 研究がツライ
11 月	地方自治体への職員訪問等 月 1 回のペースで模試を受け始める	卒論と学会に向け研究
12 月	研究がツライ	

内定への道＜Cさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男性・23歳（平成28年4月現在）

【併願先】民間数社（食品、環境コンサル）、地方上級（環境）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 OPEN ゼミ、
政策シミュレーションなど・20回程度（理工系対象も含む）

【試験区分】化学・生物・薬学（院卒試験） 【専攻科目】海洋・河川環境学

【1次試験選択】①数学・物理、②食品学、③土壌肥科学・環境科学・農薬、
④応用微生物学・生物工学、⑤遺伝学・進化学、⑥生態学・系統分類学

【2次試験選択】①食品学、②生態学

* 志望動機 *

私は幼いころから生物や自然が好きで、よく近所の川で遊んでいました。中学生のころ、お気に入りだった遊び場の環境が一変し、水の濁りがひどくなって魚がいなくなってしまうことから、きれいな自然の風景がずっと残ってほしいと思うようになりました。学部2年生の秋、自分の将来についてふと考え、中学生当時の気持ちを思い出し、環境を守る仕事がしたいと漠然と考えたことから、環境省の説明会に参加してみました。その説明会で、環境省の仕事のスケールの大きさや職員の方々の熱い思いに感動し、環境省を志すようになりました。ただしこのころは、環境問題全体を広く扱うことのできる理工系を志望していました。

学部4年生以降、心境が少しずつ変化していきました。というのは、研究室に配属されてから出会った「森里海連環学」が私にとって大きなものだったからです。フィールド間の生態系およびそれらを取り巻く人々のつながりを考えるこの学問は、森から海までの統合的管理を最終目標としており、私の興味の対象である河川がそのつながりにおいて重要な役割を担っています。私はこの森里海連環学に惹かれ、それに関する研究に取り組んできました。その中で、現場で起きている事象を実際に自分の肌で感じて把握することと、現場で得た感覚を仕事（研究）に活かすこと、その両方が大切だと感じるようになり、環境省の自然系がまさにそのような職種であると考え、自然系を志望するようになりました。ちょうど環境省でも森里川海プロジェクトが最近になってスタートし、そのプロジェクトの中心となっているのが自然環境局の部署であることも、志望理由のひとつです。

私は、人と自然が共生できる社会の構築に貢献したいと考えています。そのためには、ただ単に自然を保護するのではなく、人が自然をうまく利用していく方法を模索すること

が重要だと思っています。それは決して簡単なことではないと思いますが、それだけに、人生の大部分を費やすほどの価値があることだと考えています。そして、環境省の自然系でなら、それが可能だと感じています。

勉強方法

私は学部4年、修士1年、修士2年と3回も受験しているため、少し特殊な例かもしれませんが。学部4年と修士1年の2回に関してはあまり勉強せずに臨んだとはいえ、勉強の開始時期はほかの人よりかなり早いと思います。ただ、直前にならないとやる気が起きない性分のため、結局は試験前日まで必死になって頭に詰め込むような形になってしまいました。みなさんはできるだけ計画的に進めるようにしましょう。

勉強を始める前に、どのような科目を勉強する必要があるか、自分はどの科目が苦手、どの科目を重点的に勉強する必要があるのか、きっちりと見通しを立てることが重要です。すべての範囲を完璧にすることは不可能なので、捨てるところは潔く捨てましょう。そのためにも、できるだけ早く過去問を入手し、どのような問題が出るのか把握しておきたいところです。

【1次：基礎能力試験】

私は文章理解にはある程度自信があったので、英語など文章理解に関する勉強は一切しませんでした。また、塾講師のアルバイトをしていたことから、高校生のときの知識は薄れずに残っていたので、知識分野もほとんど勉強しませんでした。ただし、時事問題は「速攻の時事」を読んで勉強しました。学部4年と修士1年のときは軽く読む程度で、修士2年のときはしっかりと覚えるまで読んだのですが、「速攻の時事」が役立ったのは修士2年のときのみなので、覚えるまで読み込むことをおすすめします。出題されやすいような分野については、ただ読むだけではなくノートにまとめるなどしてもよいと思います。

判断推理と数的処理には少し苦手意識があったので、参考書を購入して気が向いたときに解くようにしていました。しかし、総合職試験で出題される問題が参考書の問題よりも難しいことに気づき、最後の1年は過去問ばかりを使って勉強していました。よほど苦手でなければ、本番と同じ難易度の問題で練習したほうが効率がよいと思います。学部4年と修士1年の経験から、本番では時間に余裕がなく、解くのに時間がかかったり解けない問題があったりすると焦ってしまって精神的に追い詰められることがわかったため、普段から時間を意識して解くように心がけました。残念ながら二度あることは三度あり、修士2年の受験でもプレッシャーに負け、思うように得点できませんでしたが... (笑)。

【1次：専門多肢選択式試験】

化学・生物・薬学区分は選択科目の数が非常に多いため、幅広い知識が必要となります。意外と細かい知識を問われる問題も多いので、多肢選択式とはいえ気が抜けません。1次試

験のための勉強がほとんどそのまま2次試験のための勉強にもなるので、2次試験のつもりでしっかりと勉強しておくことが楽になります。とはいえ、すべての科目をしっかりと勉強することは難しいので、私は2次試験で使用する科目を中心に勉強し、ほかの科目はサブのようなつもりで気が向いたときに勉強していました。私の場合、自分の専門に近い生態学と、興味があった食品学を軸にすることにしました。この2科目については、まずはできるだけ体系的にまとめられた参考書を大学の図書館で借り、参考書をなぞるようにして自分なりのまとめノートを作成しました。次に、別の参考書なども使用しながら、過去問に出てきたことがらを整理していきました。ほかの科目については、過去問を解き、問題とその周辺分野について整理して覚えるだけに留めました。

必須問題は基本的に高校の範囲から出題されるので、確実に7,8問は解けるようにしておきたいところです。私の場合は塾講師のアルバイトが役に立ちましたが、高校の範囲を忘れてしまっている人は勉強しなおす必要があるかもしれません。また、選択科目の1. 数学・物理で出てくる数学の問題は高校の範囲の知識で解けるので、ここで得点が狙えると専門科目の勉強が少し楽になります。

【2次：専門記述式試験】

ほかの区分では、自分の考えも含めて論述するような、正解にある程度の幅があるような問題が出題されることも多いようですが、化学・生物・薬学の区分では基本的に、決められた解が存在するような問題が出題される傾向にあるようです。そのため、きちんと勉強さえしておけば、確実に得点することができると思います。

私の場合、1次試験の勉強に使用した参考書よりさらに詳しく書かれた参考書を用いて、1次試験の勉強ではカバーしきれなかった範囲を中心に勉強しました。化学反応に登場する物質名などは、覚えたつもりになっても書こうとすると思い出せないことがあるので、何も見なくても正確に思い出せるように何度も書いて覚えました。

数年のうちに同じ分野から複数回出題されていることがしばしばあるので、過去問をできるだけ多く集めて解くことをおすすめします。また、友人からもらった大学の講義の資料が役に立ったこともあるので、資料収集は重要です。

【2次：人物試験・政策課題討議試験】

修士1年のときに人物試験を受け、基本的に面接カードに書かれている内容に関連することしか質問されないことがわかったので、自分が柔軟に対応できる内容を面接カードに書くよう心がけました。友人に面接カードを見てもらい、質問されそうなことがらのリストアップや文章の添削をお願いするとよいと思います。面接での話し方や姿勢などは、機会があれば大学のキャリアサポートセンターなどで見てもらうと自信がつくと思います。

政策課題討議試験は、院卒区分で受験している友人たちと協力して、模擬試験を3回ほど行いました。わかりやすいレジュメを作成するのが案外難しかったので、よい練習にな

りました。事前に練習をしなくても問題はないですが、本番での流れだけはきちんと把握しておいたほうがよいと思います。

【外部英語試験】

私は TOEIC で 25 点の加点を受けました。1 次試験や 2 次試験で余裕をもって合格する自信がなかったので、この加点により精神的に少し楽になりました。TOEIC を受験したのは 2016 年の 1 月で、参考書を購入し 2 週間ほど勉強してなんとか加点のラインを超えることができました。決して自慢できるような点数ではないのですが、それでも公務員・民間問わず面接で必ずといってよいほど TOEIC の点数にふれられ、話題のきっかけとして役に立つこともあったので、取得しておくに越したことはないと思います。TOEIC は受験してから成績が送られてくるまで少し時間がかかるので、早めに受けておくとうよいでしょう。私の場合は、TOEIC の受験が初めてだったにもかかわらず、これを逃すともうチャンスがないという状況だったので、背水の陣で臨みました。

【官庁訪問】

私は第 1 クールで環境省、農林水産省、経済産業省の順に訪問しました。どの省庁も環境分野を扱っているので、官庁訪問を通じて環境に関する各省庁の違いを体感することができておもしろかったです。なぜ自分はここで働きたいのか、ということが次第にブラッシュアップされていく感覚は、短期間に数多くの職員の方とお話することができる官庁訪問ならではのものだと思います。自分の成長を実感できたため、疲労はともなうものの、私にとっての官庁訪問はただただ楽しいものでした。

第 1 クールでは、私は 1 日目の第 2 部（午後）でした。待ち時間が長かったため、同じテーブルの人たちや過去に説明会などで知り合っていた事務系や理工系の受験生たちと話をして過ごしました。しかし、途中からだんだんと待ちくたびれて、うたた寝もしていました。前日まで訪問カードの記入に追われていて寝不足ぎみだったので、体調管理には気をつけるべきだったと反省しています。最初の面接では、本番だと意識すると緊張してしまい、志望理由として話そうと思っていた内容を忘れ、面接官の方から「訪問カード、見る？」と言われてしまう失態もありましたが（笑）、過去に経験してきた面接ときほど変わらない雰囲気だったので、すぐにリラックスすることができました。政策の話などで少し物足りない回答をしてしまいましたが、しっかりと自分を出し切ることができました。2 度目の面接は原課面接でしたが、自分が関心のある「森里川海プロジェクト」に携わっている方のお話を聞くことができ、面接だということを忘れて楽しくおしゃべりをしたというような感じでした。3 度目の面接は面談のようなもので、個室で落ち着いてお話ができました。

第 2 クールでは、数名の職員の方を相手に面接を行うので、第 1 クールよりも緊張しましたが、こちらの話をじっくりと聞いてくださる方ばかりだったので、話しているうちに

楽しくなってきた、最後まで笑顔でいられたように思います。本番ではいかに落ち着いて自分の思っていることを伝えられるかが最も大切だと感じました。

アドバイス

人事院面接でも官庁訪問でも、限られた時間でいかに自分のことを面接官に売り込むかが勝負なので、面接の流れをイメージしながら準備をすることが大切です。自分を売り込むためのエピソードをできるだけ多く、一つひとつは簡潔でわかりやすくかつオリジナリティーがあふれるように、納得がいくまで練りましょう。何度か面接を経験すると、ウケのよい話、あまりウケのよくない話がわかってくるので、場数を踏めば踏むほど洗練されたものになっていくと思います。自分の持ちネタが固まってくると、面接の本番中でも、「これとこれは話したから、次はそこから派生させてあの話をしよう」という具合に、ストーリー性を意識しながら進めることができます。民間就活などをする余裕がなく、面接がたくさん経験できない場合は、まわりの友人に話してみて、アドバイスをもらいましょう。就活を終えて、持つべきものは友だと改めて感じました。

その他

○試験区分について

私はもともと理工系を志望していたため、森林・自然環境区分での受験は考慮していませんでした。自然系を選択肢として考えるようになったのが修士2年の試験直前だったので、理工系と自然系のどちらにするか最後までじっくり悩めるように、どちらも受けられる化学・生物・薬学区分のまま受験することにしました。化学・生物・薬学区分から自然系に採用された前例はなく、倍率も森林・自然環境区分より高いことはわかっていましたが、「だったら最初の1人になってやろう。どうせ乗り越えるなら壁は高いほうがよい！」というくらいの気持ちでいました。すでに自然系に絞っていたり、林野庁との併願を考えていたりするのであれば、森林・自然環境区分で受けるのがよいかと思いますが、選択肢を広げたい、最後まで悩みたいといった方は、化学・生物・薬学区分で受験してみてもいいかがでしょうか。

○民間就活について

できることなら経験してみたほうがよいと私は思います。自分が本当にやりたいことは何なのかを考えるよい機会になりますし、面接の練習にもなります。私は中途半端に民間就活に気合を入れてしまい、勉強との両立に苦しみましたが、そこでの経験が官庁訪問のみならず自分のキャリア選択全体にも大きく役立ったと感じています。

○説明会等への参加について

「説明会への参加回数がチェックされている」なんて噂を耳にすることがありますが、

環境省では一切関係ないと思います。しかし、説明会等へ積極的に参加しておいて損はありません。業務内容を深く知ることができるのはもちろん、さまざまな職員の方と会うことができるので、どのような方が働いているのか自分の目で確認することができます。職員の方と知り合いになっておくと、少し聞きづらいうような質問もしやすくなり、仕事に対する具体的なイメージが湧きやすくなると思います。また、官庁訪問の際に知り合いの職員の方とエレベーターでばったり会って少し緊張がほぐれた、なんていうこともありました。メリットがたくさんあるので、機会があればぜひ説明会等に参加してみてください。

○地方からの受験について

私は地方出身なのですが、私の大学で説明会が開催されることも多く、周囲に国家総合職を受験する人がたくさんいたので、情報収集の面では苦労しませんでした。地方出身の受験生は官庁訪問中の滞在先の確保にも苦労するかもしれませんが、私の場合、幸いなことに家族が都心に住んでいたため、そこに居候することができました。しかし、同級生の中にはホテル住まいで官庁訪問に臨んでいた人も多く、金銭的にも精神的にも大変そうでした。複数の省庁を訪問する場合はとくに体力を奪われるので、快適な滞在環境を見つけられるよう、早いうちからホテルなどの情報を仕入れておいたほうがよいと思います。

○国立公園への訪問について

私は国立公園でレンジャーの方にお会いした経験がなく、大学OBでレンジャーをされている方から電話で現場についてのお話をうかがっただけでした。実際に国立公園を訪れて話を聞いておくに越したことはないですが、必要不可欠というわけではなさそうです。

最後に

自分の過去と未来について考え、それを言葉にして他人に伝える、という機会はなかなかないと思います。就職活動はそれをするよい機会です。悩んで悩んで、自分の目指すべき道が見えたら、あとは自然とうまく進んでいくと思います。まわりの友人たちが次々と民間企業からの内定をもらっていくのを横目に公務員試験の勉強に励むのはつらいですが、そうした友人たちも必ず力になってくれる存在なので、最大限に活用してください。

長くなりましたが、少しでも受験生のみなさまのお役に立つことができれば幸いです。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

スケジュール

	2012年～2014年	2015年	2016年
1月		卒業論文執筆 (試験勉強せず)	大学OBの農水省職員の方から話を聞き、刺激を受ける。
2月		卒業論文執筆 (試験勉強せず)	政策シミュレーションや民間企業の説明会に参加。
3月	2014: 試験勉強を本格的に始める。	気が向いたときに判断推理・数的処理の勉強。	民間就活の合間に勉強。 霞ヶ関OPENゼミ参加。
4月	2014: 総合職試験初受験。あっけなく一次試験不合格。	森里海連環学に深く関わるようになる。 過去問を中心に勉強。	民間就活をしながら勉強。 徐々に専門科目の勉強の比重を高めていく。
5月		総合職試験2度目の挑戦、一次試験突破。研究にも力を注ぐ。	一次試験の出来が悪く、ものすごく落ち込む。合格発表を見た瞬間、嬉しくて叫ぶ。
6月	2013: 判断推理・数的処理の参考書を購入し、ぼちぼち勉強を始める。	調査滞在中に一時帰省して二次試験受験。貴重な人事院面接の経験を積むも、あえなく不合格。	研究はいったん置いておいて二次試験に向けて勉強。 一次試験合格者説明会参加。 政策討議試験の練習。
7月		研究調査。地域に溶け込むことのよさを知る。	地方上級試験、総合職二次試験(人物)。官庁訪問の準備をしつつ研究。大学OBのレンジャーの方から話を聞く。
8月		環境省サマートライアル(環境影響評価)に参加。	官庁訪問、内々定をいただく。 足摺宇和海国立公園訪問。
9月	2013: 霧島錦江湾国立公園を自転車で駆け巡る。2014: 日光国立公園訪問。	研究しつつ、実質的な学生最後の夏休みを満喫。 中部山岳国立公園(上高地)訪問。	上旬のドイツでの国際学会発表と中旬以降のイギリスでの短期留学で海外経験値をため込む(ほぼゼロだったので)。
10月	2012: 中央省庁セミナーに初参加。環境省に惹かれる。	研究。ぼちぼち民間就活(インターンシップ等)の情報を集め始める。	中旬、イギリスから帰国。 1人だけほかの同期より遅れて内定をいただく。
11月	2012: 総合職試験についての情報収集を開始。	調査地で開催されている伝統的な裸祭りに参加。 田舎のよさを再確認。	修士論文執筆
12月	2014: 公務員試験そっこのけで研究。	リクルートスーツを購入し、就活へ気合を入れる。	修士論文執筆

内定への道＜Dさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学6年・女性・23歳

【併願先】民間1社(環境コンサル)

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ、
政策シミュレーションなど・4回ほど

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】獣医学（感染症学）

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画(国立公園)

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.3）

* 志望動機 *

私は小さい頃から生き物が大好きだったこともあり、「生物多様性」という問題に興味を持っていました。直接動物に携わり、生き物を守る仕事がしたいと大学では獣医学を専攻しました。初めはアフリカなどで傷ついた野生動物を治療する獣医師を夢みていましたが、環境問題や生態系について学ぶうちに治療や保護だけが生き物を守る道ではないのではないかと考えるようになりました。

人間の活動は開発による環境破壊などのマイナスの影響だけではなく、人の手が加わる事で独自の生態系が維持される里山のように生態系にとってプラスの影響ももたしています。さらに保護する野生動物が、地元の人にとっては害獣であったりすることもあります。このようなことを学ぶにつれて、生き物や自然だけではなく、人間の社会と自然の関わりを考えていく事で生物多様性を守って行きたいと考えるようになりました。そこで自然の保護や管理、さらに利用の中核である環境省で働きたいと思い志望しました。

きっかけ

就職先を考える上で、野生動物の保護に興味があったので日本各地にある野生動物保護センターについて調べていると主要な施設は環境省が管轄のところが多く、環境省という役割に興味を持ちました。それからレンジャーという職業を知り、説明会に参加しました。知れば知るほど自然の現場にも出る事ができ、人間の社会との関わりの中にある自然環境を1番に考えることが出来るレンジャーという職業に魅力を感じ、志すことを決めました。

* 勉強方法 *

私は受験を決めたのが試験の2ヵ月前と遅く、さらに大学での専攻とは無縁の区分で

の受験だったためかなり短期集中、詰め込み型の勉強法だったと思います。

専門試験の過去問は本屋などでは販売されていないため、入手する方法は先輩などから譲ってもらうか人事院の情報開示の制度を利用することになります。大学のキャリアサポート室や研究室で保有している場合もあるようですが、私は入手することが出来なかったため、人事院の情報開示を利用しました。H13-27年度までの過去問を請求しましたが、申し込みをしてから手元に届くまで40日くらいかかりました。そのため過去問を手に出したのは1次試験の約1ヶ月前で、そこからはひたすら過去問に取り組みました。勉強の目安は教養6割、専門多岐7割を目標にしていました。28年度の森林・自然環境区分の合格ラインは平均点（5割程度）くらいだったので1次で余裕を作る事ができたと思います。

試験区分について

H27年から生物・化学・薬学区分での採用もあったようですが、過去の内定者が全員森林・自然環境区分であったこと、倍率が森林・自然環境区分の方が低いこと(H28年度院卒者試験では生化薬が7.4倍、森林が3.1倍)などの理由から森林・自然環境区分で受験することに決め勉強しました。今年は生化薬での内定者もいますので自分の得意分野や併願する省庁などと合わせて決めたいと思います（区分によって入れる省庁が異なります）。森林・自然環境区分の範囲は環境省の政策などにも関わる分野も多いので元々知識のなかった私にとっては面接や官庁訪問でも役に立ちました。

【1次：基礎能力試験】

大学受験以来、数学には触れていなかった私にとって数的推理や図形の問題は難関でした。問題集を購入して公式を覚えなおすところからスタートし、問題を解きました。初めは、時間は計らず解き方をマスターすること、最後まで考え答えを導くことを重視し、ある程度解けるようになったら時間を決めて解く練習をしました。日英の読解はセンターの感覚で解くことが出来たのであまり対策はしませんでした。過去問を手に入れてからは時間配分を最も重視しました。何も考えずに解き始めると絶対に時間が足りなくなるので自分で解く順番を決めるといいと思います。文章理解は答えが出たら選択肢が残っていても最後まで読まずに先に進む、見直しよりも先に進む、といったように心がけました。知識問題は院卒者試験では配分が非常に少ないため、知っている問題が出ればラッキーという気持ちで勉強はしませんでした。時事問題は速攻の時事と日経新聞を読む事で対策しました。

【1次：専門多岐選択式試験】

森林系の教材は一切持っていなかったため、内定者の声を読み必要な教科書や資料を集めることからスタートしました。今回の勉強で非常に役に立ったのがiPadです。過去問が届くまでは林野庁HPからダウンロードした森林・林業白書をiPadでひたすら読んでいま

した。しかし、間伐の意味すら知らない状態だったので全く頭に入らず「ニューフォレストーズガイド」という初心者向けの本を読み林業の全貌をなんとなく理解してから勉強をスタートしました。過去問が届いてからは過去問を中心に勉強しました。解いた後は全ての選択肢を調べて周辺の情報も頭に入れていきました。過去問は7年分くらい解いたと思います。しかしあまりに古いと法律なども変わっていたりするので古い問題を解くよりは近年の問題を3回ほど解きなおして、出てきた言葉について全て数値も含めて説明できるくらいにした方が効果的な気がします。

造園計画（自然公園）については、過去問が届くまでは「国立公園の法と制度」という本を読んで日本の国立公園がどういうものなのかを理解しました。過去問の使い方は同様で、国立公園の特徴などは環境省のHPなどで調べながら覚えていきました。

試験当日は2択まで絞れるものの、どうしても分からない問題がたくさんで冷や汗が出ました。勉強中も一つ一つの事柄を単発で覚えるのではなく繋げて考えておくと、そういった時に知らない事でも自分なりの理論をつけて正答率を上げる事が出来ると思います（多分...）。

【2次：専門記述式試験】

記述は1次の勉強でほぼ対策できる、あまり点差がつきにくいと言われていたので完全に油断していました。いざ文章にしようとするペンが進まず、焦って2週間前くらいから勉強しました。「自然環境・公園緑地に関する基礎」は都市公園など1次で選択しなかった範囲が2問出る可能性があったので「森林科学に関する基礎」に絞ることにしました。過去問を見て関連する本を読んだり、森林・林業白書を何度も読んだりしました。特に白書の重要なトピックは出題される可能性が高いので自分で問題を予想し、B5のノート1ページに回答を埋めるくらいに練習しました。本番では難問は出ず予想も大体当たっていたのでスムーズに書き進めることが出来ました。しかしノートとは違って、解答用紙が1文字1文字マスになっているため（大問1題につきA3裏表）1度書くと大幅に書き換えることが出来ません。点数は手ごたえよりも大分低かった（平均も）ので、完答したからといって簡単にいい点数が取れるわけではないようです。

【2次：人物試験】

面接カードの書き方や話す内容をキャリアサポート室で見てもらい、あとはネットなどでみるよくある質問の答えを色々考えてから挑みました。本番は面接官もにこやかで優しく、私も根がおしゃべりなので楽しく会話をしてあっという間に終わりました。対策本などでもよく言われていますが、人物試験では特殊な経験よりも受け答えやその人の考え方を、会話を通して見ている印象を受けたのでとにかく笑顔で普段のエピソードを話せばいい評価をもらえると思います。

【2次：政策討議試験】

私はグループディスカッションというものを経験したことがなかったので非常に不安を持っていました。大学に1人だけ政策討議練習に参加したことがある友人がいたので、政策討議の流れやレジュメの書き方、討議のポイントなどを教えてもらいました。本格的なグループでの練習は出来ませんでしたが、もらった資料や自分で作った資料を使って25分で資料を読んでレジュメを作成する、3分でそれを発表するといった練習を3パターンほど行いました。当日はあまり議論が白熱せず、自分もしゃべりすぎてしまったかなと心配でしたが、レジュメと発表は無事にこなせて評価も悪くなかったので練習したかいがありました。意外とレジュメや議論になれていない人も多いと感じたので対策をする価値は十分にあると思います。

【英語試験】

これまでTOEICを受けた事がなく、1次試験の翌週に焦って受験しました。が、結局加点は0点で挑むことになってしまいました。加点がなくても他で挽回することは十分に可能なので、加点がないからといって悲観的になる必要は全くないと思います。ただ官庁訪問でも言われましたが、国家公務員として働くうえで英語が重視されていることには変わりはないので勉強しておくに越した事は無いと思います。私もこれから勉強頑張ります...

【官庁訪問】

官庁訪問前に国立公園を訪問したいと考えていたので、2次試験後に秩父多摩甲斐国立公園と阿蘇くじゅう国立公園に行きました。秩父多摩甲斐国立公園では自然保護官事務所にアポを取って実際にレンジャーの方とお話をする事が出来ました。阿蘇くじゅう国立公園では直接レンジャーの方と話す機会はありませんでしたが、勉強した事を踏まえて国立公園がどのように整備されているか、レンジャーになったらどんなことがしたいかを実際に歩いて身体で感じる事が出来ました。官庁訪問では今回の訪問で感じた事を盛り込んで話すことで説得力を増すことが出来たと思います。

環境省の官庁訪問は第1クールがブース面接（職員2人）、原課面接（職員1人、指定された部署に行って職務内容を聞く）、面接（職員1人、面談みたいな感じ）で、第2クールは幹部面接1回と他省庁に比べ職務内容を聞く機会が少なかったように思います。レンジャー職は事前の説明会や自然保護官事務所訪問で職務内容を理解していることが前提なのかなと感じました。そのためにも説明会など（出来ればレンジャーの方と直接話して）実際に何が出来るか、どんなキャリアパスになるかなど理解し、疑問も事前に解消しておく方がベターだと思います。面接カードの裏面は表面の補足のような感じで、自分でスペースを区切って埋めましたが、表面しか見ない面接官もいました。少し圧迫かなと思う質問もありましたが、自信のない表情は出さないように心がけました。志望動機や環境に関する

る事は割と深く突っ込まれます。しかし全く関係のない話題も振られるので、気になるニュースなどもチェックしておきましょう。

私の訪問順は以下の通りです。

第1クール 1日目：環境省 2日目：林野庁 3日目：経済産業省

第2クール 1日目：なし 2日目：林野庁、環境省 3日目：経済産業省

他の省庁は説明会で興味を持った2つを訪問しました。省庁によって雰囲気も違い、様々なお話を聞くことが出来たのでとても楽しかったです。それぞれ魅力はありましたが、他省庁の職務内容や組織を知ったことで自信を持って最終的に環境省を選ぶ事が出来ました。準備や体力面では大変ですが、非常にいい経験になったので私は他省庁も訪問して良かったと思っています。

アドバイス

○レンジャーは人間相手の仕事

実際にレンジャーの方とお話しをして一番印象的だったのは、レンジャーの仕事は8割以上が人を相手にする仕事だということです。地方勤務では地元の集落の一員となって仕事をしなければならないし、現場に出ても自然だけでなく人との関わりが非常に密だそうです。そういうこともありレンジャー職の面接では人柄や印象も特に重視しているように感じました。また官庁訪問ではレンジャーや国立公園については知っている方が絶対に有利だと思うので是非国立公園に足を運びレンジャーの方とお話をしてみてください。そこで本当にレンジャーになりたいのか、自分のやりたい事と本当にマッチしているのかという事も分かると思います。

○周囲を巻き込んで楽しもう

私が恵まれていたと感じることは周囲の友人が森林や環境の話に付き合ってくれたことです。確かに一緒に勉強して試験を受ける仲間はいませんでした。休憩中や食事中に「面白い木の話あったー？」と勉強の内容に興味を持って聞いてくれたので自分の言葉で話すことで知らず知らずのうちに知識の定着に繋がったと思います。全く勉強に関係のない息抜きも大事ですが、私は机の上以外でも森林や環境の話題にアンテナを立てていました。1次試験後は「WOOD JOB!」の映画鑑賞会もして、一緒に楽しんでくれた友人たちの応援はとても励みになりました。

最後に

私の内定への道のりはとにかく不安だらけでした。数的推理がさっぱりでも、TOEICの加点がなくても、登山なんかした事がなくても、研究内容が全く関係なくても、どこかで

挽回のチャンスが必ずあると思います。もし本当にレンジャーになりたいと思ったら〇〇だから無理という気持ちは一切捨てて、本気で挑戦してみてください。可能性は誰にでもあると思います！

泣きたくなるときもあると思いますが、息抜きも忘れず、楽しんで勉強頑張ってください。応援しています！

長い文章を最後までお読み頂き有難うございました。

スケジュール

	2015	2016
1月	将来については未定。 実験、バイト、遊ぶ日々。	将来について迷走中。 慌てて受けた企業インターンに全て落ちる。悩む。
2月	”	動物病院見学。
3月	”	3日 霞ヶ関 OPEN。レンジャーを志すことを決める。 勉強を始めるも日中は実験に追われる。
4月	”	アルバイトを休ませてもらう。 1週目で実験ストップ。企業説明会 START。 朝から晩まで図書館に籠る生活が始まる。
5月	”	卒論中間発表。 22日 国家総合1次試験。実験再開。 29日 TOEIC。撃沈。
6月	”	企業就活、1社内定。 19日 国家総合2次試験。アルバイト復帰。
7月	”	14日 人物試験&政策討議試験。 秩父多摩甲斐国立公園、自然保護官事務所訪問。
8月	野生動物に関われる仕事を考え始める。	阿蘇くじゅう国立公園訪問。 3日～官庁訪問 17日 内々定！嬉しい！
9月	カナダの国立公園観光。	学会発表。
10月	実験。	3日 最終面接、内定。
11月	農場で牛の実習。	卒論提出。
12月	黒染めして就活への気合を入れてみる。	卒論発表。

内定への道＜Eさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部4年・女性・22歳

【併願先】院試（出願のみ）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、学内説明会
政策シミュレーション・4回

【試験区分】森林自然環境（大卒程度試験） 【専攻科目】森林科学（砂防）

【1次試験選択】①砂防学基礎、②砂防工学、③流域管理

【2次試験選択】国土保全に関する基礎知識（No.4 及び No.5）

志望動機

父親が動物好きで小さい頃からペットを飼っていたので、物心ついた時から私も動物が好きでした。ここからは、どうして私が環境省総合職自然系を志望したのか、ターニングポイントを時系列に述べたいと思います。

1つ目のターニングポイントは、小学生の時に読んだ天然記念物の週刊誌です。その雑誌を通じて、日本を代表する天然記念物の生態や生息地環境などについて知りました。イリオモテヤマネコやルリカケスといったような原生的自然に住んでいる動物だけが天然記念物かと思っていたら、タヌキや奈良のシカも天然記念物だったという事実には驚いた記憶があります。読んでいくうちに、人間活動が原因で生息地を脅かされている生物が多くいると気づき、将来は自然環境の保全に携われる仕事をやりたいと考えていました。

大学は獣医学部に行きたかったのですが、色々考えた結果、農学部に進学することに決めました。最初は生態学関係のことを勉強したいと思ったのですが、せっかくだから他分野も勉強したいと思い、様々なことが広範囲で学べる森林科学（生態学や砂防、林業関係まで）を専攻しました。そして大学2年生の春休みに小笠原諸島・屋久島に行きました。これが2つ目のターニングポイントです。行った理由としては、観光目的もありましたが、世界自然遺産に登録されているような素晴らしい自然の中で過ごすことで、自分が将来どのようなことをやりたいのか、真剣に考えることが出来ると思ったからです。言うまでもなく、小笠原や屋久島の壮大な自然に心を動かされ、日本にもこのような美しい自然があることを嬉しく思い、ずっと残していきたいと強く思いました。

実は私が総合職自然系についてちゃんと知ったのは大学3年の秋に行われた学内説明会の時です。これが3つ目のターニングポイントです。将来の進路として公務員は候補としてありましたが、当時は大学院進学を考えていたため、公務員についてはぼんやりと知っていたぐらいで、総合職自然系の話を聞いた時に「これがずっとやりたかったことだ！」と強く思いました。野生生物の保全をはじめ、国立公園の管理、世界自然遺産、動物愛護、

また地球温暖化といったような国際的な環境問題にも取り組めるところ、勿論仕事をしていく中で大変なこともきっとあるけれど、様々な分野の自然環境に携われることを仕事として出来る点が私にとって非常に魅力的でした。また職員の方が、楽しそうに話をしてくださっている姿、熱意を持って仕事をされている姿に惹かれたのも理由の1つです。

他にも色々ありましたが、以上の主な理由で、総合職自然系を志望しました。

勉強方法

【1次：基礎能力試験】

公務員試験に詳しい友人達からの勧めで、数的処理と判断推理は問題集を購入し、年明けくらいから問題慣れの感覚で解き始めました。4月頃から、模擬試験問題集を1冊購入し、科目ごとに割合を変えて解きました。過去問は直前に2・3年分解きました。

時事は「速攻の時事」を直前にさらっと読みました。自然科学は理系として全問正解したかったため(笑)、参考書を1冊購入しました(買わなくても良かったかな、と後で思いました)。文章理解や社会系は特に参考書は購入しませんでした。

まず勉強を始める前に一通り解いてみると、自分の得点源がわかると思います。私は文章理解・自然科学・数的処理・判断推理あたりで得点を稼ごうと思って計画を立てました。

【1次：専門多肢選択式試験】

問題演習しながら知識を詰めていく形式で勉強しました。解き始めたのは3月下旬ぐらいです。関連のある大学の講義プリントや書籍を机の上に置き、わからなかったらすぐ調べられるようにしていました。研究室の先輩方が残してくださった過去問を解きながら、ルーズリーフにまとめていきました。インデックスラベルを使えば、範囲ごとに内容を分けられるので、後で復習するときに便利です。電子媒体を使っている方もいますが、自分の覚えやすい方で良いと思います。過去問は10年分を2周し、間違えたところを徹底的に見直しました。

試験当日は時間ギリギリまで見直し、間違いを3問くらい見つけました。細かいところまで詰めたおかげか、1次専門は今まで解いた中で一番点数が良かったです。

【2次：専門記述式試験】

基本的に過去問をまとめながら勉強しました。記述に関しては、いきなり書き始めるのではなく、フローチャートなどで要点を整理してから書くと良いと思います(勿論、時間内に解き終わる練習も)。問題の雰囲気は院試と似ていると思います。

個人的な結果は悪かったです。過去問を分析していて思ったのは、砂防系の記述式の問題傾向が変わってきたということです。あくまで私の感覚ですが、ただ暗記すれば良いのではなく、思考力が試される問題になってきているなと思います。勿論、砂防をしっかりと理解していれば解ける問題ですが、私はまだその領域に達しておらず、実力不足でした。

また、対策が遅かったことも原因だったと思います（1次試験が終わってから少しずつ始めました…）。

【2次：政策論文試験】

ほとんど対策していません。面倒だったわけではなく、専門の記述の勉強と授業の発表などがあり、時間がとれなかったからです。政策論文対策の参考書を軽く読み、過去問を少しだけ見る程度ぐらいしか出来ませんでした。論文対策に関しては、他の方が、過去の内定者の声を参考にされると良いと思います。申し訳ないです。

【2次：人物試験】

本格的な対策を始めたのは2次の記述が終わってからです。面接対策の本を購入し、面接のマナーなどの知識を入れました。読んでいくうちに、公務員に対する考えが広がった気がします。面接カードの添削や面接練習は、大学で主にしてもらいました。民間企業の面接を経験している友達や母親にも協力してもらい、アドバイスをもらいました。

当日は5人グループのトップバッターでした。自分が一番だと思っていなかったのも、やや緊張しました。基本的に面接カード通りです。自分の中で、「どうして公務員が良いのか」「なぜ民間ではないのか」といったことを整理できていれば大丈夫だと思います。所要時間は約20分で、集合時間の1時間後には試験会場を出ていました。

【英語について】

英語が得意科目だったので大学に入った時からTOEICの勉強をコツコツやっていました。TOEIC730点以上だと25点加算される制度があるので、英語が得意な人は使ってみると良いと思います。

先述したように、1次の専門は良かったのですが、2次の専門記述が本当に悪かったです。恥ずかしい話ですが、英語の加点が無ければ合格していませんでした（順位もそれなりです）。勿論、英語の加点無しでも合格点を十分に上回ればいいのですが、できる人たちも英語の加点制度を使っている人が多いと思うので、あった方が安心だと思います。

【官庁訪問】

実家の最寄り駅から霞ヶ関までは電車で30分程ということで、行き帰りは便利でした。環境省には第1クールの1日目と第2クールの2日目に去了。早めに行ったため、全3グループ中1グループ目、お昼頃には会場を出ることができました。待合室は予想していた以上にリラックスできる雰囲気でした。待っている間は、同じテーブルの人と情報共有や世間話をしていました。やはり自然系志望の人は国立公園に詳しい人が多く（自分は専攻が砂防系だったので）、楽しいお話を沢山聞けました。また理工系のテーブルに1年目の職員の方がお話をいらしていましたが、その中に私が知っている方がいて感動し、

思わず話しかけてしまいました。

面接カードは、手書きでもワードでも、見易ければどちらでも良いと思います。私にはワード入力という概念が無く（笑）、手書きのものを提出しました。1クール目は面接が3回あり、1回目は面接官が2人、2・3回目は1人でした。1回目は基本的に面接カード通りで、コンピテンシー型の面接でした。2回目は職場面接で、自分から質問していくスタイルでした（面接官によります）。面接官の方が優しい方で、些細な質問にも丁寧に答えてくれたのを覚えています。3回目は少し小さい部屋に呼ばれ、1名の面接官と面接しました。そこでの面接は今までとは違い、雑談に近い雰囲気でしたが、自分自身について深く聞かれた印象があります。2クール目は幹部面接で4対1でした。時間は約15分で、面接カードに書かれていることを深く聞かれました。

他省庁は、国土交通省に2回行きました。他の省庁に必ず行く必要性は無いですが、面接だけでもかなり違うので、雰囲気を知れて面白いと思います。

アドバイス

私が参加できたイベントや説明会は少ないです。インターンシップも行きたかったのですが学校の実習と被っており、本省主催の説明会は学校の授業と時間が合わず、1次試験後の合同省庁説明会以外は行けませんでした。政策シミュレーションでは、他の参加者の方の優秀さに圧倒されっぱなしでしたが、気候変動の国際交渉の雰囲気を少しでも感じられて良かったです。

環境省では説明会に行った回数は採用とは関係無いですが、JOBトークや実際のレンジャーさんに会う機会があれば、積極的に行った方が良いです。ネットで調べるだけでは限界があるので、現場を見た方が視野もぐっと広がると思います。

その他

私は最初から公務員志望だったわけではなく、去年の今頃は大学院進学を考えていました。しかし、総合職自然系と迷い始め、なかなか決意を固められず、結局両方の勉強をやることにしました。大学院に行っても良かったのですが、「今挑戦しなければ後悔する…！」と思い、必死で机に向かいました。

公務員に限ったことではありませんが、本当に大切なのは、自分の思いを伝えられるかどうかだと思います。私は他の内定者の方と比較すると、現場で学んだ回数（国立公園に行ったり、実際に働いているレンジャーさんに会ったり等）は少ないと思います。その代わりに、なぜ自分が総合職自然系を志望したのかについて徹底的に考えました（自分の頭の中だけではなく、他人にも伝わるように）。最後まで前向きに頑張った結果、内定をいただくことができました。長い間、私を支えてくれた友人・家族に感謝です。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。これから環境省を志望する人・興味がある人などに、少しでもお役に立てれば幸いです。

スケジュール

	2015年	2016年
1月		教養の勉強をコツコツ始める。
2月		2回目の学内説明会で、レンジャーへの思いが強くなる。下旬からシンガポールへ短期留学。
3月		帰国。 政策シミュレーションに参加して挫折しそうになる。 アルバイトを辞める。
4月		専門の勉強を始める。
5月	実習。	研究室訪問で京都へ。 23日：1次試験。
6月		4日：別の研究室訪問。 19日：2次試験（記述）。 次の日が授業のプレゼン発表だった。 21日：省庁合同説明会 30日：人物試験
7月		院試の勉強をやりつつ、卒論も少し進める。 29日：最終合格。
8月	実習。	3日～：官庁訪問 17日：内々定をいただく
9月	研究のお手伝いでタイへ。環境省に内々定をもらった先輩の影響で、環境省を意識し始める。	研究のお手伝いで再びタイへ。 実習のTA。
10月		3日：内定をいただく。 卒論の中間発表。
11月	学内公務員説明会で総合職自然系を意識し始める。	卒論
12月	コンサルのアルバイトを始める。	卒論

内定への道＜Fさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男性・23歳（H28.4現在）

【併願先】地方上級（林業）、民間（環境コンサル）

【参加した説明会・回数】なし

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】農学（林学）

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③森林生物生産科学

【2次試験選択】森林科学に関する基礎（No.1及びNo.3）

志望動機

祖父母の暮らす都市郊外で、自然が開発されていく姿を目撃すると同時に、そこで暮らす人々のいろいろな事情も体感しました。自然を守りたい想いと開発によって豊かになりたい想い、自然の中で暮らしたい人と便利な社会で暮らしたい人、それぞれの想いを持つ多様な人々の意見をくみながら、皆が生きやすい幸福な社会を作りたいと考えました。

勉強方法

【総括】

「判断推理、数的推理はしっかり対策しましょう！」

公務員試験を受験しようと考えたのは大学院に入学してすぐの頃でしたが、修論研究や日々の暮らしなどに気をとられて全く勉強に身が入らないまま、試験に臨みました。筆記試験では、高校、大学でしっかり勉強してきたことを発揮できれば大丈夫だと思います。面接や官庁訪問では、力まずに本来の自分の姿を見せられるかが重要だったと感じています。

なお、専攻と試験分野が異なる方は、ゼロから始めるため大変だと思います。しっかり対策するために、今年度も他専攻から合格されている方がいらっしゃるの、そちらをご参照ください。

【英語試験】

利用しませんでした。15～25点の加算があるということなので、自分の英語力を確認することも兼ねて受験しておくといと思います。

【1次：基礎能力試験】

特に対策しませんでした。

—理系科目・文系科目・時事問題

日ごろから、新聞や書籍、テレビやインターネットから知識を吸収しておくとうよいと思います。

—判断推理・数的推理

これはどうにもなりませんでした。最優先で対策するべきだと思います。

【1次：専門多肢選択式試験】

過去問は数年分入手しました。ザッと目を通して、なんとかなりそう！と思いました。専攻してきた分野であれば、ある程度は解けると思います。

【2次：専門記述式試験】

レポートを書いたり、ゼミ資料を作ったりしていれば記述力は十分磨かれていることと思います。なんとかなります。

○アドバイス

- ・この分野でここ何年も問題とされているような課題について聞かれました。講義や学会等に問題意識をもって臨んでいれば、わからなくて焦ることはないと思います。
- ・今回わたしは、ちょうど他大学での講演で聞いた内容が試験に出ました。（あの先生が作ったんじゃないか…？なんて思うほどでした。）机上で試験勉強に熱中するばかりではなく、情報収集に出歩くことも大事だと思います。

【2次：政策課題討議試験】

大学のゼミが最高の訓練場だと思います。深い見識をもった議論のプロと話し合えるわけなので。あとは、民間を受けたときのグループディスカッションでの経験が大いに役に立ちました。どのような話し方で、どのような発言をすれば議論が進むのか、同じような立場にある就活生を参考にして自分の態度を見直せました。

【2次：人物試験】

面接カードに書かれた内容について、5W1Hを聞かれるような試験でした。自分の経験と、それを通して学んだことについて正直に記述し、また回答していけば問題ありません。

○アドバイス

- ・面接カードに意図的に穴を作っておくと、そこを面接官が突っ込んできます。これに対し穴を埋めるような回答を用意しておけば、余裕をもって取り組みます。

【官庁訪問】

自分の思いをしっかり話すこと、相手の話をきちんと聞くこと、疑問点や問題点をわか

りやすく伝えること等に気がつけました。

○Q&A

Q. 遠方だが、初日に行かないと不利か。

A. 内定者には2日目以降の訪問者もいます。私は2日目の夕方の部に訪問しました。

Q. 面接票は両面埋めるべきか。

A. 1枚目のみ使用しました。

Q. 写真を紛失した！

A. 家庭用のプリンターで印刷した写真でも可能でした。

アドバイス

就職活動にあたっては、自分の道はこれしかない！と思わず、いろいろな道を模索して
みる必要があると思います。その経験を踏まえて選んだ仕事であれば、困難にぶつかっ
ても挫けずに取り組んでいけるものと思います。

その他

私が「内定者の声」の存在を知ったのは官庁訪問の前日でした。なので、こういうこと
が役に立ったなとか、こういう経験をしたことをメモしておこうとか、そういった取り組
みをしてきませんでした。あまり参考にならなかったとは思いますが、ここまで読んでい
ただいて光栄です。頑張ってください。

スケジュール

	2016年
1月	学会準備 調査：三重
2月	旅行：山梨や長野や静岡など 就活や研究にかかる費用を稼ぐためにアルバイト
3月	学会 北海道→東京（青春18）の旅：出羽三山や酸ヶ湯温泉にも
4月	修論学内中間発表会
5月	総合職一次試験 民間説明会本格化
6月	学会 隔週で公務員試験 民間就活本格化&お祈りメール
7月	民間就活で初の内定 旅行：秩父飯能
8月	官庁訪問&内々定！
9月	旅行：関西 調査
10月	最終面接（内定式） 調査
11月	修論に向けてデータ解析
12月	

内定者ってどんな人たち？

同期の第一印象

- ・ 明るく輝いた雰囲気。
- ・ レンジャーは女性が多い。とても。
- ・ 事務系、理工系、自然系でそれぞれ雰囲気が違う。
- ・ しっかりしている。
- ・ 見た目はゆったりしているけど、自分の考えをしっかりとっていそう。
- ・ 落ち着いて意見を言える人が多い。
- ・ 気取らない、自然体な雰囲気。
- ・ 関西出身が多い？
- ・ 愛されキャラっぽい。

趣味

アクティブ

登山、旅行、サッカー、釣り、シュノーケリング、原付に乗って鼻歌

文化

読書、美術鑑賞、宝塚鑑賞、料理、お菓子作り、裁縫、ポストカード集め

巡り

散策、動物園・水族館巡り、美味・美酒巡り

失敗談

勉強で...

- ・内定者の声を読まなかったこと。
- ・専門記述式試験の対策を始めるのが遅かった。
- ・過去問を請求するのが遅かった（人事院に請求すると 40 日くらいかかります）。

試験当日...

- ・人事院面接の集合時に着席場所を間違えてしまい、
他の受験生を動揺させてしまった。
- ・筆記試験直前に飲み物を飲みすぎて開始早々にお腹が痛くなり、集中できなかった。
- ・人事院面接で会場に着くまでの間に脇汗を死ぬほどかいて
会場で上着を脱げなかった。

官庁訪問で...

- ・最終面接までの間に官庁訪問カードのコピーをなくしてしまったこと。
- ・ブース面接で、指示される前に、真っ先に椅子に座ってしまったこと（最初に名前を言うのも忘れました、本当にごめんなさい）。
- ・官庁訪問初日の朝、寝坊して出発予定の 15 分前に起きたこと。
- ・官庁訪問 3 日前に財布や資料が全部入ったかばんをまるごと盗まれた（翌日現金以外返ってきました...）。

環境省の印象

環境省のイメージ

- ・ 熱い思いを持っている人が多い。あと庁舎内も暑い。
- ・ **ベンチャー的。**
- ・ 組織が小さい分若いうちから責任のある仕事を任される。
- ・ 若手からトップまで職員の方同士の関係が近い。
- ・ 省全体の風通しが良い。
- ・ **将来を見据えて今何をやるべきかを考えている場所。**
- ・ 業務の分野が幅広くて楽しそう。
- ・ 廊下が暗い（率先して節電や Eco に取り組んでいる）。
- ・ 大学で専攻していた**分野が多様。**
- ・ みんな、山や海といった自然が好き。
- ・ 1人当たりの役割（仕事量と責任）が大きい。

職員の方々の印象

- ・ **ストレス耐性高め。**
- ・ 気さくに話しかけてくれる。優しい。
- ・ 若くて明るい！
- ・ 熱意を持って仕事をされている姿。
- ・ 他省庁と比較して、雰囲気はやわらかい。
- ・ 個性的な人が多い。
- ・ 笑顔がやさしい。
- ・ 熱さの中に冷静さがある。
- ・ 仕事も趣味も充実している。